

<経済界の取り組み>

■ 経団連 「SDGsは人類の叡智の結晶である。」 (中西会長)

経団連は、国際社会が掲げた包括的で野心的な目標を、人類が目指すべき社会の姿と考えている。

他の選択肢はなく、また後戻りしてはならない。

今、その目標に向かって、着実に前に進まなければ、子どもたちに誇れる持続可能な社会を残すことはできない。

SDGs達成に向けた2030年までの行動と連帯は、世界にとって大きな変革をもたらす。

経団連は「Society 5.0」を提案。革新技術を最大限活用する経済発展と社会的課題の解決とが両立した社会。

AIやIoT、ロボット、ビッグデータなどの最先端技術をあらゆる産業や社会に取り入れることより、様々な社会的課題の解決とともに、国や人種、年齢、性別を越えて、必要な人に、必要なモノ・サービスが、必要なだけ届く快適な暮らしが実現される未来社会。

■ 経済同友会 「Japan 2.0 最適化社会に向けて」 (小林代表幹事)

既に多くの企業が持続可能性を意識した経営を進めており、投資家の間でもESG投資が浸透しつつある。

SDGsを実現する上で、経済界が果たす役割は非常に大きくなっている。

「X軸：経済の豊かさの実現」「Y軸：イノベーションによる未来の開拓」「Z軸：社会の持続可能性の確保」

3軸は短期的に見れば互いに矛盾する場合もあり、国家価値を高め、最大化していくことは決して容易なことではない。

いかなる不都合な真実に対してもひるむことなく、最適解を追求していくこと

持続可能な社会の実現のために最後に必要なのは、リーダーの覚悟と市民の自覚です。

SDGsがそれらを促すための中心的ツールとして世界に広がっていくことを期待。

企業行動憲章

— 持続可能な社会の実現のために —

2017年11月8日

一般社団法人 日本経済団体連合会

企業は、公正かつ自由な競争の下、社会に有用な付加価値および雇用の創出と自律的で責任ある行動を通じて、**持続可能な社会の実現を牽引する役割を担う**。そのため企業は、国の内外において次の10原則に基づき、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

(持続可能な経済成長と社会的課題の解決)

1.イノベーションを通じて社会に有用で安全な商品・サービスを開発、提供し、**持続可能な経済成長と社会的課題の解決を図る**。

(公正な事業慣行)

2.公正かつ自由な競争ならびに適正な取引、責任ある調達を行う。また、政治、行政との健全な関係を保つ。

(公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的対話)

3.企業情報を積極的、効果的かつ公正に開示し、企業をとりまく幅広いステークホルダーと建設的な対話を行い、企業価値の向上を図る。

(人権の尊重)

4.すべての人々の人権を尊重する経営を行う。

(消費者・顧客との信頼関係)

5.消費者・顧客に対して、商品・サービスに関する適切な情報提供、誠実なコミュニケーションを行い、満足と信頼を獲得する。

(働き方の改革、職場環境の充実)

6.従業員の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現する。また、健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整備する。

(環境問題への取り組み)

7.環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件として、主体的に行動する。

(社会参画と発展への貢献)

8.「良き企業市民」として、積極的に社会に参画し、その発展に貢献する。

(危機管理の徹底)

9.市民生活や企業活動に脅威を与える反社会的勢力の行動やテロ、サイバー攻撃、自然災害等に備え、組織的な危機管理を徹底する。

(経営トップの役割と本憲章の徹底)

10.経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識して経営にあたり、実効あるガバナンスを構築して社内、グループ企業に周知徹底を図る。あわせてサプライチェーンにも本憲章の精神に基づく行動を促す。また、本憲章の精神に反し社会からの信頼を失うような事態が発生した時には、経営トップが率先して問題解決、原因究明、再発防止等に努め、その責任を果たす。

<岡山経済同友会の取組み>

- 2017年7月 岡山大学榎野新学長記念講演
「しなやかに超えていく「実りの学都」へ」 ～SDGsに貢献する岡山大学～
- 2017年12月 SDGsの達成に向けた第1回RCE世界会議開催（岡山市・岡山大学）
- 2018年3月 岡山経済同友会70周年記念事業「30年後に100周年を迎える同胞に」
～持続可能な社会の実現～
- 2018年5月 SDGs研究・推進会議創設（全委員会委員長参加）
- 2018年6月 定例幹事会講演 根本かおる国連広報センター所長
- 7月 特別講演会 蟹江憲史慶応大学大学院教授
- 8月 第1回研究会 中島浩一郎銘健工業社長
- 10月 岡山市担当部局と意見交換
- 11月 真庭市長訪問
- 12月 第2回研究会 八矢舞子日本政策投資銀行、春名久美子株式会社マルイ
- 2019年1月 おかやま地域発展協議体 おかやまSDGs研究会創設

<SDGsと経済（企業活動）>

国連グローバル・コンパクト(UNGC)

1999年の世界経済フォーラム(ダボス会議)でアナン国連事務総長(当時)が提唱
各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する**自発的な**取り組み

SDGs Compass（SDGs企業行動指針）

<SDGsはなぜ企業にとって重要か？>

- ◇ 将来のビジネスチャンスの見極め（12兆ドル）
- ◇ 企業の持続可能性に関わる価値の向上
（企業価値、リスクの低減、投融資、選択性、人財）（ソフトロー/三方良し）
- ◇ ステークホルダーとの関係の強化、新たな政策展開との同調
- ◇ 社会と市場の安定化
- ◇ 共通言語の使用と目的の共有



- ◇ 自分たちの将来を見つめなおす機会（バックキャストイング）
- ◇ 自分たちの事業と社会とのかかわりを意識する機会
- ◇ ワーク・ライフバランスを考える機会（生きがい、働きがい）